

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 609
事務事業名称		一般廃棄物最終処分場管理業務								
担当部署(R8年度機構)		部：	環境部	課：	東部資源循環センター	区分	行政運営事業			
基本項目	総合計画	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分		
		施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 2014(H26)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		法律に定める処分場の廃止基準を満たし、最終処分場としての管理の終了及び土地の活用の拡大。							
	対象者(受益者)		一般廃棄物最終処分場への埋立事業は終了しているが、法律で定める廃止基準を満たすまで、浸出水の処理、ガス測定等を行う必要があるため、その業務に従事する職員/最終処分地の土地を利用する市民							
	現状・課題		現状で法律の廃止基準を満たす状態になるには長期間(数十年)必要であり、その間の管理継続及び土地の利用に制限がかかる。							
	事業の概要		枚方市一般廃棄物最終処分場は平成14年4月に埋立が終了しているが、法律で定める廃止基準の適合を確認できるまで、必要とされる分析測定を実施し、埋立地周辺地域への影響を定期的に維持管理をする。 平成26年10月から多目的広場として暫定利用を開始した。							
	年間の主な事務		通年:地下水質、浸出水水質、下流河川水質の水質検査、ガス通気管のガス成分検査(業務委託)・浸出水の搬送(業務委託)・敷地管理(浸出水揚水ポンプ の管理・水質検査用井戸の管理・外周フェンスの修理・樹木伐採・除草・旧排水処理施設管理棟の巡回点検)。 旧処分場表面を多目的広場として貸し出すにあたり、利用希望者へ利用日の抽選結果の通知及び利用状況の把握。							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)			R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績		
	正職員			0.84人	0.77人	—	—		
	再任用			0.00人	0.00人	—	—		
	任期付職員			0.00人	0.00人	—	—		
	会計年度任用職員			0.00人	0.00人	—	—		
	特別職非常勤			0.00人	0.00人	—	—		
	附属機関委員			0.00人	0.00人	—	—		
決算額	(千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,458	6,321	—	—		
			会計年度任用職員	0	0	—	—		
			特別職非常勤	0	0	—	—		
			附属機関委員	0	0	—	—		
		人件費計		6,458	6,321	—	—		
		物件費計		8,576	8,359	—	—	9,867	84.7%
	歳出計			15,034	14,680	—	—		
	歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金		0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
		市債		0	0	—	—	0	
		その他		0	0	—	—	0	
		歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
	一般財源(物件費充当分のみ)			8,576	8,359	—	—	9,867	

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 地下水質、浸出水水質、下流河川水質の水質検査、ガス通気管のガス成分検査(業務委託)(浸出水pHの非適合回数)	回	3 回	3 回	— 回	— 回
② 浸出水の年間搬送量(業務委託)	m³	43 m³	79 m³	— m³	— m³
③ 地下水質、浸出水水質、下流河川水質の水質検査、ガス通気管のガス成分検査(業務委託)(浸出水処理水の非適合回数/年間12回)	回	0 回	0 回	— 回	— 回
④ 旧処分場表面を多目的広場として貸し出すにあたり、利用希望者へ利用日の抽選結果の通知及び利用状況の把握(多目的広場のべ利用人数)	人	1,131 人	1,054 人	— 人	— 人

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

説明

—

—

R6

R7

R8

R9

単位

目標

実績

算出方法

—

—

—

アウトカム(結果による変化・便益)

説明

—

—

R6

R7

R8

R9

単位

目標

実績

算出方法

—

—

—

ロジックモデル

アウトプット①

アウトカム①

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

- ・施設管理について瑕疵は生じていない。なお、浸出水のpHだけ、廃止基準に適合していないため、引き続き管理・監視が必要。
- ・最終処分場表面の多目的広場の利用者数については、減少気味の横這いである。
- ・排水処理施設の表面について、公民連携プラットフォームで利用者の募集を開始した。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	・最終処分場の維持管理について、問題なく管理を継続している。 ・多目的広場の利用者数の増加につながるよう、利用キャンセルが判明した時点で、次点の利用者に連絡が行くように規約を変更した。 ・排水処理施設の表面の有効利用について検討した結果、利用条件を整え、公民連携プラットフォームで利用者の募集を開始した。
R7年度	・最終処分場の維持管理について、問題なく管理を継続している。 ・排水処理施設の表面の有効利用について、R6年度から公民連携プラットフォームで利用者の募集を行い、問合せが1件あったが、条件に合わなかったのでも引き続き募集を継続している。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	・最終処分場の維持管理について、引き続き適切な管理を行う。 ・最終処分場の表面利用について、公共利用(公共工事用の土砂の仮置き場等)を含め、検討を行う。	R8年度方向性	見直し
----------	---	---------	-----

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	拡充	見直し	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報

調査番号 611

事務事業名称		東部清掃工場見学等環境啓発事業							
担当部署(R8年度機構)		部：	環境部	課：	東部資源循環センター	区分	任意的事業		
基本項目	総合計画	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	任意的区分	
		施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	事業期間		事業開始： 2008(H20)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)						
	根拠法令等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律						
	関係附属機関等		該当なし						
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —						
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		ごみ処理施設からの啓発活動を通じて、市民に4Rの取組等を理解していただくとともに、ごみ減量、資源化および環境保全の活動に関心、実行頂けている状態。						
	対象者(受益者)		東部清掃工場の訪問予約をする市民、およびその予約に関連する市民(市内・市外問わず)/環境フェスタ氷室ふれあいの里の駅で東部清掃工場を訪れる市民 見学対応する職員						
	現状・課題		工場見学等の対応が困難になった場合、市民が減量及び環境保全の活動に関心を持つ機会がない。						
	事業の概要		ごみの適正な分別や資源の有効活用に関する啓発活動の一環として、事前予約制により、約2時間の施設見学を実施。小学校では、4年生の社会科でごみ処理等について学んでおり、市内小学校や他市からも小学生を受け入れて見学を行っている。 また、秋季には、「環境フェスタ 氷室ふれあいの里の駅」等のイベントを実施し、より多くの市民にごみ処理について、理解を深めていく場として。						
	年間の主な事務		施設見学予約受付、見学対応およびイベント開催 ・小学4年生 校外学習(主に5月から7月) ・一般見学者(通年) 他市視察、自治会、看護学校、養護学校等 ・「環境フェスタ 氷室ふれあいの里の駅」の開催(10月最終日曜日 荒天中止)、リユースイベント開催						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員		0.81人	0.80人	—	—
	再任用		0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員		0.10人	0.10人	—	—
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—

決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,227	6,567	—	—	
			会計年度任用職員	323	350	—	—	
			特別職非常勤	0	0	—	—	
			附属機関委員	0	0	—	—	
		人件費計		6,550	6,917	—	—	
		物件費計		224	367	—	396	92.7%
	歳出計		6,774	7,284	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
		府支出金	0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
		市債	0	0	—	—	0	
		その他	0	0	—	—	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
	一般財源(物件費充当分のみ)		224	367	—	—	396	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の
人件費は、人員配置を
もとに平均人件費を乗算
しています。
※「歳入」欄には物件費に
充当されるもののみ記載
されています。

令和7年度 事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号 612

事務事業名称			東部清掃工場施設維持管理業務							
担当部署(R8年度機構)			部：環境部		課：東部資源循環センター		区分	持続的事业		
基本項目	総合計画	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち					細区分	維持管理区分	
		施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち					性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 2008(H20)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律、電気事業法							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
	詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		安定したごみ処理施設の運転						
対象者(受益者)		ごみを排出する市民及び事業者								
現状・課題		施設機能が適切に維持・保全出来なくなった場合、ごみの円滑な処理が難しくなる。								
事業の概要		・焼却施設【焼却炉 120t/日×2炉(溶融炉はR4年度に停止(廃止)済)】および破砕処理施設【39t/5h】の各施設において、定期補修工事(年2回 前期・後期)の実施 ・各種機器・設備(燃焼設備・燃焼ガス冷却設備・排ガス処理設備・余熱利用設備・排水処理設備、破砕処理設備・選別設備・集じん設備、電気設備)等の保守点検及び清掃・警備業務の実施								
年間の主な事務			搬入されたごみを適切に処理し、処理残渣を大阪湾広域臨海環境整備センターへ、リサイクル資源をリサイクル業者に引き渡す。							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
人員体制	正職員	2.44人	2.23人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.20人	0.20人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

			(千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
決算額	歳出	正職員、再任用、任期付職員	18,759	18,306	—	—			
		会計年度任用職員	545	700	—	—			
		特別職非常勤	0	0	—	—			
		附属機関委員	0	0	—	—			
		人件費計	19,304	19,006	—	—			
		物件費計	627,344	795,976	—	—	804,466	98.9%	
	歳出計			646,648	814,982	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。	
		府支出金	0	0	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0		
市債		9,900	0	—	—	0			
その他		466,483	0	—	—	0			
歳入計(物件費に充当される特定財源)			476,383	0	—	—	0		
一般財源(物件費充当分のみ)			150,961	795,976	—	—	804,466		

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ごみ搬入量	t	52,653.11 t	54,956.37 t	— t	— t
② 残渣処分量	t	6,219.5 t	6,656.8 t	— t	— t
③ 金属リサイクル量	t	761.14 t	767.24 t	— t	— t
④ 使用済み小型家電リサイクル量	t	46.62 t	50.36 t	— t	— t

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

東部清掃工場が適正に維持管理されている。

修繕料、補修工事等に係る当初予算額に対する決算額の割合。

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	98.2	98.9	—	—	%
算出方法	決算額/当初予算額×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明

—

—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

・東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画の改定版(令和2年3月策定)に基づく基幹的設備改良事業を第1期工事として、令和3年度から令和7年度までの設備機器改良工事を引き続き実施する。
・粗大ごみ破碎処理施設においては、整備計画に基づく定期補修工事や随時の補修対応により、長期稼働に必要な施設性能を維持する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	ごみ処理計画に基づき、搬入されたごみ(52653.11t)を適切に処理し、処理残渣(6219.5t)を大阪湾広域臨海環境整備センターへ、リサイクル資源(合計807.7t)をリサイクル業者に引き渡した。
R7年度	ごみ処理計画に基づき、搬入されたごみ(54,956.37t)を適切に処理し、処理残渣(6,656.8t)を大阪湾広域臨海環境整備センターへ、リサイクル資源(合計817.6t)をリサイクル業者に引き渡した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	・施設の更新・修繕(枚方京田辺環境施設組合へ移管された焼却処理施設の運営・維持管理に関する事務を除く)及び、破碎処理施設の維持管理について適切に実施する。	R8年度方向性	見直し
----------	---	---------	-----

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	見直し	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 613
事務事業名称		東部清掃工場施設運営業務								
担当部署(R8年度機構)		部：	環境部	課：	東部資源循環センター	区分	行政運営事業			
基本項目	総合計画	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分		
		施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 2008(H20)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律、電気事業法							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		不適切なごみの搬入防止や、施設の適正管理によるごみの安定処理。							
	対象者(受益者)		東部清掃工場のごみ処理により、環境に影響を受ける市民							
	現状・課題		処理するごみ質の変化等より、排ガス等の処理が不安定になることがある。							
	事業の概要		・排ガス等の分析の実施 ・焼却炉120t/日×2炉(溶融炉はR4年度に停止(廃止)済)により市内の焼却ごみ(家庭系一般ごみ及び事業系一般 廃棄物)約6割を適正に処理し、焼却残渣については、広域廃棄物埋立場(大阪湾フェニックス)へ搬出・処分を行う。 ・余熱利用として、発電能力4,500kWhの蒸気タービン発電機により発電を行い余剰電力は売却する。 ・粗大ごみ処理39t/日により市内の粗大ごみを適正に処理し、処理工程で選別した金属類については、資源化を図る。また、処理工程で発生する不燃残渣については、広域廃棄物埋立処分場(大阪湾フェニックス)へ搬出・処分を行う							
	年間の主な事務		適正な設備機械等の維持整備をすることで、設備機械や環境への負荷の低減に向けた運転を目指していく。							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員		3.11人	2.70人	—	—
	再任用		0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員		0.40人	0.40人	—	—
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—

決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	23,910	22,164	—	—	
			会計年度任用職員	1,291	1,401	—	—	
			特別職非常勤	0	0	—	—	
			附属機関委員	0	0	—	—	
		人件費計		25,201	23,565	—	—	
		物件費計		796,080	794,525	—	—	838,662 94.7%
	歳出計		821,281	818,090	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
		府支出金	0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)	1,754	1,730	—	—	1,826	
		市債	0	0	—	—	0	
		その他	198,570	195,522	—	—	218,785	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		200,324	197,252	—	—	220,611	
	一般財源(物件費充当分のみ)		595,756	597,273	—	—	618,051	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の
人件費は、人員配置を
もとに平均人件費を乗算
しています。
※「歳入」欄には物件費に
充当されるもののみ記載
されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)					
年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 法令等に基づいて排ガス等の分析を実施する。 (1年間の検査実施回数/法令等に定める必要回数(年間12回))	%	100 %	100 %	— %	— %
② 市域内で発生する焼却ごみ(家庭系一般ごみ及び事業系一般廃棄物)を受け入れ、焼却する。	トン	46,163.66 トン	48,791.87 トン	— トン	— トン
③ 市域内の粗大ごみを受入れ、破碎・選別する(粗大ごみ処理量)	トン	6,489.45 トン	6,163.5 トン	— トン	— トン
④ 余熱利用として、発電能力4.5kWhの蒸気タービン発電機により発電を行う(年間発電量)	MWh	24,929 MWh	24,307 MWh	— MWh	— MWh

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)							直接アウトカム(結果による変化・便益)								
ロジックモデル	アウトプット①	説明	—					アウトカム①	指標	説明	—				
		指標	—							指標	—				
		目標	R6	R7	R8	R9	単位			目標	R6	R7	R8	R9	単位
		実績					—			実績					—
		算出方法	—							算出方法	—				
		単位	—							単位	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

・適正な設備機械等の維持整備をすることで、設備機械や環境への負荷の低減に向けた運転を目指していく。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	適正な設備機械等の維持整備を実施できた。
R7年度	適正な設備機械等の維持整備を実施できた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	・施設の更新・修繕(枚方京田辺環境施設組合へ移管された焼却処理施設の運営・維持管理に関する事務を除く)及び、破碎処理施設の維持管理について適切に実施する。	R8年度方向性	見直し
----------	---	---------	-----

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	見直し	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報

調査番号 622

事務事業名称		東部清掃工場焼却施設長寿命化に係る整備事業							
担当部署(R8年度機構)		部：	環境部	課：	東部資源循環センター	区分	持続的事業		
基本項目	総合計画	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	投資的区分	
		施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	事業期間		事業開始： 2016(H28)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)						
	根拠法令等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律						
	関係附属機関等		該当なし						
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —						
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		既存の焼却施設の延命化を図る						
	対象者(受益者)		ごみを排出する市民及び事業者						
	現状・課題		東部清掃工場焼却施設長寿命化計画に伴う、設備的基幹改良工事の第2期工事の内容等についての精査。						
	事業の概要		・灰溶融炉の停止(廃止)工事(R4年度完了) ・基幹的設備改良工事 ・延命化工事						
	年間の主な事務		・東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画の改定版(令和2年3月策定)に基づく基幹的設備改良事業を第1期工事として、令和3年度から令和7年度までの設備機器改良工事及び循環型社会形成推進交付金の申請等、適宜、進めて行く。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員		1.00人	0.85人	—	—
	再任用		0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員		0.05人	0.05人	—	—
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—

決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	7,688	6,978	—	—	
			会計年度任用職員	161	175	—	—	
			特別職非常勤	0	0	—	—	
			附属機関委員	0	0	—	—	
			人件費計	7,849	7,153	—	—	
			物件費計	812,130	618,585	—	618,585	100.0%
	歳出計		819,979	625,738	—	—		
	歳入	国庫支出金	268,161	199,500	—	—	199,500	
		府支出金	0	0	—	—	0	(留意事項)
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。
		市債	488,300	374,100	—	—	374,100	※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		その他	0	0	—	—	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		756,461	573,600	—	—	573,600	
	一般財源(物件費充当分のみ)		55,669	44,985	—	—	44,985	

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 第1期工事(灰溶融炉の停止(廃止)工事、基幹的設備改良工事)を進める。 (当該年度における出来高/第1期工事の当該年度における全体事業費×100)	%	83.7 %	100 %	— %	— %

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)							直接アウトカム(結果による変化・便益)						
ロジックモデル	アウトプット①	説明	各年度の工事を適切に進めることにより、第1期工事全体を適切に進める。					説明	—				
		指標	第1期工事全体に係る整備の進捗率 (R8年度以降の目標値は仮定値)					指標	—				
			R6	R7	R8	R9	単位		R6	R7	R8	R9	単位
		目標	83.7	100	100	100	%	目標	—	—	—	—	—
		実績	83.7	100	—	—	%	実績	—	—	—	—	—
		算出方法	年度末時点での工事出来高(%)					算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

・東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画の改定版(令和2年3月策定)に基づく基幹的設備改良事業を第1期工事として、令和3年度から令和7年度までの設備機器改良工事及び循環型社会形成推進交付金の申請等、適宜、進めて行く。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和6年度の計画どおり、東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画に基づく基幹的設備改良事業を第一期工事として実施し、令和6年度分の「循環型社会形成推進交付金」の交付を受けた。
R7年度	令和7年度の計画どおり、東部清掃工場焼却施設長寿命化総合計画に基づく基幹的設備改良事業を第一期工事として実施し、本事業すべての工事を完了した。令和7年度分の「循環型社会形成推進交付金」の交付を受けた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	本事業は令和7年度に完了した。 なお、焼却施設は枚方京田辺環境施設組合へ移管されたため、以後の事務は枚方京田辺環境施設組合で実施する。	R8年度方向性	終了
----------	--	---------	----

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	終了	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 878
事務事業名称		東部資源循環センター運営事務								
担当部署(R8年度機構)		部：	環境部	課：	東部資源循環センター	区分	行政運営事業			
基本項目	総合計画	基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分		
		施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 2022(R4)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		—							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		庶務事務の正確で迅速な執行管理を行う。							
	対象者(受益者)		東部資源循環センターの職員							
	現状・課題		東部資源循環センターの運営を円滑に図る							
	事業の概要		東部資源循環センターの運営業務							
	年間の主な事務		・ごみ処理設備以外の事務機器・設備管理(ごみ処理設備の維持管理は、「613東部清掃工場施設運営業務」に配分)							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		1.80人	1.65人	—	—			
	再任用		0.00人	0.00人	—	—			
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—			
	会計年度任用職員		0.05人	0.05人	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—			
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—			
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	13,838	13,545	—	—		
			会計年度任用職員	161	175	—	—		
			特別職非常勤	0	0	—	—		
			附属機関委員	0	0	—	—		
		人件費計		13,999	13,720	—	—		
		物件費計		6,112	15,371	—	—	15,244	100.8%
	歳出計		20,111	29,091	—	—			
	歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。	
		府支出金	0	0	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	1,754	0	—	—	0		
		市債	2,500	0	—	—	0		
		その他	0	1,636	—	—	1,578		
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		4,254	1,636	—	—	1,578		
	一般財源(物件費充当分のみ)		1,858	13,735	—	—	13,666		

